



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 41

PROFILE

1982年沖縄県出身。上智大学文学部教育学科卒業。2006年「ミス・ユニバース世界大会」で第2位に輝く。以降、テレビ、雑誌、CMなどで幅広く活躍中。07年よりWFP国連世界食糧計画のオフィシャルサポーター、2013年より国連WFP日本大使に就任。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

できることから始めよう

モデル 知花 くらら

CHIBANA Kurara



© Mayumi.R

開発途上国の女性や子どもの問題にずっと関心があって、いつか現場に行ってみたくて思っていました。縁あってWFP国連世界食糧計画のオフィシャルサポーターになって7年。毎年現地に行き思うのは、国際協力といっても一言ではくれないということ。それぞれの国には事情があって、文化も風習も違う。何が良く何が悪いのか、私たちの基準で測ることはできないのです。でもただ一つ、彼らの幸せが膨らんで、自分たちの足で立てるような協力が重要だということとは共通しています。

国連WFPは途上国の子どもたちに学校給食を配るプロジェクトを実施していますが、その現場をこの目で見るまで、この世界に飢えて苦しんでいる人たちがいるという状況が想像しづらかった。給食があれば、毎日最低でも一食はきちんと食事を取ることができます。人間の生きる源である「食」と、子どもたちの学びの場である「学校」を結びつけたこの協力は、とても大切だと実感しました。

決して裕福とはいえない生活を送る子

どもたちですが、いつも彼らは元気です。人懐こくて、世界中どこに行ってもそのパワーは同じです。お母さんたちもそう。自分のおなかを痛めて産んだ子の幸せのためなら、どんなこともがんばるという思いが伝わってきます。母は強いと感じます。

青年海外協力隊員の方々にお会いすることも多いのですが、その懸命な姿に感動します。彼らの活動には「こうしたらいい」というガイドブックがあるわけではない。壁にぶち当たりながらも、なんとか解決策を考えて、乗り越えようと努力をしています。そして、日本人のメンタリティーからなのか、いつも相手がどうやったら喜んでくれるかを一生懸命考えているのが素敵だと思います。「和をもって貴しとなす」という言葉がありますが、まさにこれこそ日本らしい国際協力ではないでしょうか。

個人的な印象としては、東日本大震災以降、日本国内で国際協力に対する考え方が大きく変わったように感じます。東北があそこまで大変な状況になって、

どのようにしたら被災地を助けられるのかをみんなが真剣に考えました。それは海外で困っている人に対しても変わらないと、私の活動を応援してくださる方も増えたような気がします。

昨年末には、国連WFP日本大使に就任しました。これからも現地に足を運び、そこで懸命に生きる人々の表情をもっと伝えたい。大変なことも多いけれど、私たちと変わらない部分もたくさんあることを知ってほしいのです。

誰でも関心のあること、得意なことはあるはずです。それがきっと、あなたが世界とつながるきっかけとなるはず。自分の持っているものをちょっとシェアするだけでいいんです。気負わず、少しずつ自分ができることを探してみませんか。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で 検索